

東京大学 大学院人文社会系研究科 平成 22 年度
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

欧米系文化研究専攻現代文芸論専門分野
修士課程 佐藤 和香

1. 派遣生の基本情報

氏名: 佐藤 和香

所属研究室: 現代文芸論

学年: 修士2年(平成23年度時点)

派遣形態: 個人派遣

2. 研究テーマ

Julio Cortázarの作品におけるコスモポリスとしてのブエノスアイレス

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名: アルゼンチン共和国

都市名: ブエノスアイレス、メンドーサ、サルタ、ラ・プラタ

研究機関:

国立ブエノスアイレス大学人文社会学部図書館、

国立ブエノスアイレス大学イスパノアメリカ文学研究所、

国立クーヨ大学中央図書館、

ブエノスアイレス国立図書館、

マリアノ・アコスタ第二師範学校

コンタクトした主な研究者:

ホセ・アミコラ教授 (ラ・プラタ大学文学部教授)、

ルカス・セゲッソ研究員 (サルタ国立大学)、

パブロ・アグエロ氏 (クーヨ国立大学歴史資料センター長)、

パブロ・ピノ氏 (マリアノ・アコスタ師範学校歴史資料室室長)

(2) 派遣期間

出発日: 2011年1月28日

帰国日: 2011年4月12日

総日数: 73日間

4. 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要:

本研究ではアルゼンチンの作家Julio Cortázar(1914-1984)の小説において、ブエノスアイレスという都市がどのように表象され、また都市の歴史と環境がどのように作家の思考に影響を与えたかを实地調査し、修士論文に関わる研究材料として資料収集および都市考察を行うことを目的とした。また大学図書館、古書店、資料館にて論文、新聞/雑誌、書籍などの参考資料を収集し、調査してまとめることを研究課題とした。

(2) 実際に達成された成果:

コルタサルが幼少期を過ごし、後に短篇"el veneno"「殺虫剤」でユートピアの原風景として描かれたバンフィエルド地区、短篇「夜の学校」などを始め度々作品の舞台となったマリアノ・アコスタ第二師範学校、そして小説内に出てくるカフェテリア、広場、通り、駅、地区(バリオ)、アーケード(ガレリア)などを訪ねた。またブエノスアイレスだけでなく、作家が実際に教鞭をとっていたメンドーサのクーヨ国立大学、日本で今まで言及されることのなかった作家の父方の故郷である地方都市サルタを訪ね、作家の出自と足跡を平行して辿ることが出来た。実際に都市で生活するという経験を通して、コルタサルがどのようにブエノスアイレスを歩いていたのか、都市の遊歩者《flâneur》を描いた小説 *Rayuera* 『石蹴り遊び』を始めとして、多くの短篇・長篇作品の具象的な理解と読解を深めることが出来た。また現地の研究者のみならず、都市建築や文化人類学、社会政治を専門分野とする日本人研究者たちと出会えたことも大きな収穫であった。今後の学際的な協力と共同調査を視野にいれ、交流を深めて行きたいと考える。

(3) 今後の研究展望:

具体的な成果として、まず本研究で得た資料を基に修士論文を作成し、南米文学研究における学術的な貢献及びより広域的な研究発展へと繋げて行くことを目下の課題とする。特に今回の派遣で得た作家の青年期に纏わる資料と血縁者へのインタビューは、コルタサル研究の発展の糸口となることが期待できる。今後も現地で接触した研究者との交流を継続し、更なる指導と助言を求めて行きたい。今回の成果を研究発表する場として、学会や研究会での発表、ラテンアメリカ研究所所報への投稿などを考えている。